

2.16. 情報メディア学講座

2.16.1. 講座の概要

(a) 講座の簡単な説明、キーワード

インターネットとは、元々コンピュータ同士が情報をやり取りするための仕組みでした。しかし、多くの人々がそれを便利な道具として情報をやり取りすることにより、インターネットはコミュニケーションの場、すなわち双方向のメディアとなりました。さらに、そこではコンテンツ（販売品や放送内容）が提供され、インターネットはマーケットとなり、それを支える基盤は産業となりました。このようにメディアそしてマーケットとなったインターネットが、既存のメディアやマーケットと大きく異なるのは、知恵と技術を駆使すれば、さらにその上に無限の新しいメディアや新しいマーケットを創成できるという点にあります。

本講座では、こんな観点から新しいメディアの技術開発から利用技術までを一貫して研究しています。そのため、おのずと他の研究室、他の領域の人々との連携が必須となりますし、他大学、企業との共同研究も多くなります。そのような相互協力の中から、新しいことを考え、ものを作り出していこうとしています。

キーワード： メディア、 インターネット、 ヒューマンコンピュータインタラクション

(b) 年度目標

- 人、モノ、環境が、コンピュータやネットワークを通じて密接な社会的関係を結び合うことで得られるより豊かな社会を創造するために幅広い観点からの研究を行う。
- 今年度は、当講座のミッションステートメント（その核は、知の創造と融合、その具現化と活用を通してソフトウェア技術による豊かな知識社会の実現に貢献）設定の3年目あたり、その成果をまとめることが中心である。すなわち、（1）研究自身の推進とその社会への応用、（2）具体的課題の発見と他領域との連携による課題の解決、である。具体的に、（1）のために高度なメディア研究（共同作業支援、実指向インタフェースなど）また、（2）のためにソフトウェア産業を経営として見立てでのシミュレーション、厨房機器制御関連、健康サービス支援等の研究を行なう、これをとおして ミッションステートメント実現し、その実現過程を通して、研究室経営のノウハウを確立することも目標とする、

(c) 講座構成教員名

布川博士、佐藤究、小笠原直人

(d) 研究テーマ

- コンピュータで利用できる情報メディアの高度利用
- 共同作業支援のためのメディア
- 感性パラメタによる経営組織のシミュレーション
- 健康情報システムの構築
- 厨房機器制御システムの構築

(e) 在籍学生数

博士(前期)：2名、博士(後期)：1名、卒研究生：13名、研究生：0名